

（別紙4） 令和 元 年度

（様式1）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101091		
法人名	社会福祉法人 善隣会		
事業所名	グループホーム山径		
所在地	山梨県甲府市和田町2948-6		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	令和2年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

可能な範囲で出来る方には、食事の支度や掃除・洗濯などの家事を行い、自宅に近い状況で生活を送る事が出来るよう支援している。毎食手作りの食事を提供し、四季折々の食材を使い季節を感じる事が出来る様工夫している。また、外出や行事を毎月実施、四季の行事を大事にしている。月に1回は勉強会の実施と、外部研修への参加を積極的に行い職員の質を高めている。又、終末期ケアに取り組み、最期までその人らしく過ごせる様、ご家族と話し合い、ご家族・Dr・職員一丸となってケアしている。毎月発行している山径通信は、ご家族から生活の様子が分かる、とても好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同敷地内に特別養護老人ホームを母体に、いくつかの事業所が併設されて協力体制が整っている。居室のベランダからは、眼下に甲府の街並みが見える。4項目の理念を2項目にまとめた目標「笑顔で助け合い楽しく過ごせるホーム」掲げ、地域密着型サービスの意義である、地域で暮らし続けられるよう考えながら日々実践につなげている。、利用者の個々に寄り沿う管理者を始め職員の支援姿勢は、食事の時間など和やかな様子から感じ取られる。家族とは、毎月「山径通信」を通して情報を共有している。終末期におけるホスピスケアについても、専門医と連携をとり最後までその人らしく過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホーム山径

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づき運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互いに仲良く助け合うホーム」「各自が役割を持ち、笑顔があふれるホーム」「和やかな会話が続かないホーム」「地域の方と交流を持ちながら暮らし続けるホーム」とこの4点を理念に、日々の実践に繋げている。また、週1回のミーティングやスタッフ会議などでも確認し、共有している。	事業所独自の理念4項目を掲げつつ、「笑顔で助け合い楽しく過ごせるホーム」を目標に週1回のミーティング、月1回のスタッフ会議で確認し情報を共有している。また、地域の関係性を重視し運営推進会議などで話し合い、利用者が地域の中で暮らし続けられるよう管理者、職員は理念を大切に日々の中で実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(保育園の運動会)に出向き競技等にも積極的に参加している。また、3日に1度は近隣のスーパーへ食材の買い出しに出掛け交流を図っている。他事業所との交流も大切にしたいと考えている。	地域の保育園の運動会に招かれたり、併設事業所に来るボランティアが事業所にも来て利用者と一緒に歌って楽しんでいる。また、3日に1回はスーパーに食材を買いに行くので顔馴染みになり挨拶をして日常的に交流をしている。近くの公園の緑化まつりにも参加するなど、地域の一員として触れ合う機会が多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「いきいきサロン」への協力体制の確保。健康福祉祭りへも参加し、地域の方の相談にもなっている。入居等の相談時には、認知症に対する家族の思いを共感、理解し、出来るアドバイスを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、サービス状況等の説明を行い、参加者から率直な意見を頂き日々のサービスへ繋げる努力を行っている。	会議は2か月に1回開催し、家族には面会時にお知らせし利用者も参加して情報交換を行っている。地域の情報を得て防災訓練に参加したり、利用者から「退院後も継続して事業所を利用したい」との意見があり、ニーズに応えサービス向上に努めている。自己評価・外部評価の報告も行い一体的に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が来所して対応している。2ヶ月に一度、推進会議録にて入居者の現状や状況、取り組み内容等を報告している。	運営推進会議の議事録を届けたり、利用者の把握や書類作成など心配の相談をし積極的に連携を図るよう努めている。市より派遣された介護相談員の受け入れを行い協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、法人、事業所単位でも研修会を実施し、スタッフ会議ではアクシデントやインシデントについて再度振り返り検討をしている。また、運営推進会議において、身体拘束適正化について報告し、意見を求め、更に行動制限のないよう見守りし、安全確保に努め、寄り添う介護に努めている。	年2回研修を行い、レポートを作成し研修担当に提出している。また、外部研修後は、スタッフ会議で報告し意見交換している。スピーチロック等、言葉をさえぎったり、気持ちや行動を抑制しない様に職員間で声掛けをし、利用者が外出したい様子を察知したら、一緒について行く等自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は教育的研修会を実施。入居者の身体的・精神的変化は記録に残すと共に、日頃のケアを振り返り、不適切ケアについて職員で考える、話合える職場作りに努めている。外部研修にも参加し、研修内容を共有している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元引受人が県外や遠方にいる方が増えてきている。他事業所とも相談や指導を頂きながら対応している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書や重要事項の説明を行い、その場では理解し難い部分においても、ご家族の思いを聞きながら日々の関わりの中で説明している。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名： **グループホーム山径**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名()	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは、日々の関わりや、月に1回行われる入居者主催の会にて意見や要望を聞き入れ、行事食や外出レクなどに繋げている。ご家族に対しても、担当者会議の際や面会時、電話連絡等を利用して意見や要望を聞き、出された要望等は検討し対応している。	月に1回、利用者が中心となって「なでしこ会」が開かれ、利用者同士の交流の場となっている。健康管理について、七夕祭り・花見等の外出や回転寿司等の外食の希望があり、出された意見や要望はその都度相談して日々の生活に反映させている。また、家族からの意見や要望も面会や電話で把握し対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やミーティングの際などにおいて、意見交換を行いその内容を運営へも活かせるようにしている。年1回、事業所説明会にて代表者と全職員との意見交換の場を持っている。	法人内でヒアリングがあり全職員が意見を言える機会がある。職員の配置について男性職員を希望、加湿器の物品要求し現在検討中。降雪時に事業所への道路が危険なため、環境整備をして欲しいとの意見があり改善し反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、初任者研修において就業規則についての説明や嘱託職員から正規職員への登用も行っている。スタッフ会議においては個々の意見を尊重した意見交換に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為の研修への参加。また、月1回研修会を持ち回りで開催する事で個々のスキルアップに努めている。外部研修へも参加し、スタッフ会議などにて報告している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所への訪問、外部研修、他事業所での研修への参加を勧め、交流の場を持ち刺激を受けながらサービスの質の向上に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でも要望や不安を聞き、どのような場所かの説明を行い不安の解消へと繋げている。また、入居時にも困っている事や不安な事に対して聞きながら対応している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時には、要望や不安等の思いを聞き、説明を通じて理解を得ながら安心へと繋げている。随時、相談も可能である事も説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時等の記録や、ケアマネ、ご家族の情報から家族・本人が置かれている現状、必要としている事を見極め必要な対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの間に壁を作らず、日常での活動と一緒に行う事で互いに信頼関係を築き、和やかに生活出来るよう努めている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名： **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊、行事への参加などいつでも可能である事を伝え、ご家族と本人の関係を切ってしまうよう支援している。全てをスタッフが行うのではなく、ご家族の役割を入居時にも説明し、随時手紙や電話にて連絡を取っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に合わせた外出や面会、電話等の実施。馴染みの店や地元への買い物に出掛けている。	馴染みの美容室や地域の商店へ買い物に行っている。家族・親戚や知人等と電話や面会で相互関係が築ける様に支援している。また、年1回の個人外出では事前に利用者の希望を把握し、家族の協力を得て墓参り・リニアを見に行く等、外出の機会を作り継続的な交流ができるように働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な方へは職員が間に入り、また入居者同士へもお願いしながら、互いの関係を支え合っている。月に1度入居者主催の会を通じてより支え合えるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年2回、オカリナ演奏会として来所していただいている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、思いや意向を聞きながらケアプランへと繋げている。困難な場合はご家族から情報を得たり、皆で話し合いながら、表情や仕草から汲み取り本人合った支援を検討している。	職員は、担当制で利用者の日常を把握し、お互いに情報交換し共有している。また、日常の会話や表情などから把握している。誕生日会には、1年間の生活の様子をアルバムにして記録に残し、その中から利用者一人ひとりを理解するためのアプローチを丁寧に行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、または、以前関係していた事業所へも連絡を取り、情報収集に努め本人の持っている生活感の把握、馴染みの生活への支援に繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや関わりの中での状態変化への気付きを常に職員間で共有し把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、本人、ご家族の意向、主治医、看護師、関係者からの情報をもとに職員で協議し、介護計画を作成している。また、情報交換ノートを活用し、随時サービスの検討を行い現状に合った介護計画へと繋げている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報交換ノートを活用し情報の共有を図り、ケース記録にてケアプランの確認、日々の様子、ケアプランに沿ったケアが出来ているか等記録に残し介護計画の見直しをしている。			

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホーム山径

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物など、ご家族が対応出来ない場合には連絡を取りながら送迎や付き添いを行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、地域行事への参加、近隣スーパーへの買い物など地域の方達と関われるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、主治医についての説明と確認を行い、希望に合わせた主治医への連絡、往診等の対応を行っている。	内科以外の受診には、家族が対応し情報を書面で伝えているが、状況によっては職員が同行する事もある。また、定期的な受診には、情報を持参して家族が対応し、医師から状況を書面で受け職員間でも共有している。協力医の往診や希望すれば歯科の往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサインに加え、週2回看護師による身体チェックを行い、日々の様子報告や気になる点は相談、助言、必要なアドバイスをお願いし医師との連携へと繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に面会に行き、医師や看護師との情報交換を行い退院への必要な援助についての確認を行いながら、早期退院へと繋げている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行うが、重度化した時にはご家族、主治医、看護師等必要関係者も交えた話し合いの場を持ち、連携体制の確保方向性を決めている。随時様子の変化に対応しての連携もしている。	看取りについて、協力医を中心に家族と話し合い対応を検討している。重度化した場合は、日々の介護状態を見ながら事業所が対応しうる時に家族の意向を聞いて、その都度関係者会議を開き確認している。家族が看取りをする時は、宿泊できる部屋があり、事業者の契約看護師も来てくれ、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人研修会において、救命救急法実技指導を受けている。また、マニュアルを作成し個々に確認をしている。年に1回緊急時の対応についての研修会を行い見直し、連携体制の確認を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成と年2回の防災訓練の実施をしている。併設施設(特養)と合同で、災害時の対応等確認を行っている。	併設施設と合同で年2回地震・火災・土砂災害を想定し避難訓練をしている。火災については、夜間訓練も実施し、併設施設の職員が消防団員である事から他の団員と一緒に来て、消火訓練や防災について指導やアドバイスをしてくれる。備蓄品もあり、2階から併設施設1階ベランダへの避難経路も確保されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけの工夫や会話の仕方や対応に心がけている。年1回プライバシー保護や職業倫理について研修会を行っている。	職員は、利用者への会話の仕方、生活歴を踏まえた関わり方の工夫を心がけている。全体研修、初任者研修時に情報を確認し、職員同士で関わりを持って対応している。入室時のノック、排泄面では、特に言葉遣いに注意し、自己決定し易い言葉かけをするように努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名：

グループホーム山径

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや入居者主催の「なでしこ会」を開催し、希望や要望が言え、自己決定にも配慮した働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の意見や要望意向を尊重し、本人のペースに職員が寄り添い合わせた対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活中での整容、外出時のおしゃれ、馴染みの美容室への外出等、日々好みの洋服を着て頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れたメニュー作り。それぞれが出来る役割を持ち、協力しながら行っている。	1週間分のメニューを作成するが、利用者の希望を聞いて変更する事もある。利用者の希望で「あずきほうとう」を作り、麵打ち、食器洗いや後片付け等できることを職員と一緒にしている。誕生日は好物をメニューにし、ホットケーキ・おしるこ・焼き芋会など一人ひとりの好みや力を活かし、食を通じて個別に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活状況表の活用。栄養バランスを併設する栄養士に相談。また、主治医の意見と合わせて行っている。水分については、好みの物も用意し提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア。夜間はホリデントの使用。必要に応じて歯科医に相談、往診依頼している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入や、その方の行動、仕草などから声かけ等を行う。排泄リズムの把握に努め、個々に合った排泄パターンを見つけ支援している。	一人ひとりの排泄リズムをサインや排泄表から把握し、職員間で共有、さりげなく誘導、支援している。トイレでの排泄を可能にするために、食前・食後の様子で対応して本人の生活リズムに沿った支援をし、日中のトイレ誘導・夜間のポータブルトイレへの対応など時間帯に応じて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供や、食事量、水分量のチェック。排便を促すような寒天等の食物繊維や温度刺激、乳酸菌などの提供も行っている。排便チェックを行いながら主治医にも相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	一人ひとりの希望に沿って入浴できるようにしている。気持ち良く入ってもらえるよう、声かけを工夫したり、スタッフ間で連携を図り対応している。	入浴は毎日可能であるが、週2~3回している。一番風呂を希望する利用者があり、一人ひとりの希望に沿って対応している。入浴を拒否する場合には、言葉かけを工夫し、職員間で連携を図っている。家族から情報をもらい利用者の好みのシャンプーを使ったり、季節によって菖蒲湯やゆず湯にして楽しんでいる。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名： **グループホーム山径**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせた就寝時間の提供。なかなか眠れない時はお茶を提供、ゆっくり話をする事で安心出来る関わりをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋ファイルを作成。その都度確認できるようにしている。薬が変更になる際には、個別のファイルや確認ノートを利用し情報の共有を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物には声掛けを出掛け、季節に合わせた外出、個々の希望に合わせた個人外出、戸外に出掛けられる様支援している。	日々の買い物に職員と一緒にいたり、個人の家のバラの花を見に行く等、戸外に出る支援を行っている。梅や桜の季節には、おやつを持って出かけて五感刺激の機会としている。個人外出や家族の協力を得て個々の利用者の希望に応じた外出の機会を持っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望に合わせ職員が預かる事も行っている。一緒に買い物に行き、お財布を渡し、自分で支払い購入をしてもらう。社会的自立支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせ電話をかけ、掛かってきたら取り次ぎ、やり取りができるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花や装飾、新聞や雑誌を置き自由に読む事も出来る。窓の開閉、エアコンの温度調節、換気・湿度調節を行う。ベランダにも椅子を用意してゆっくり過ごせる環境を提供している。	利用者は、明るいフロアのソファで猫を抱いてくつろいでいる。小上がりでは横になって休む事もできる。ベランダには、花を植えたプランターやベンチが置かれくつろぐ事ができる。台所からは、調理の匂いがして家庭的である。卵の殻から作った事業所の目標「笑顔で助け合い楽しく過ごせるホーム」が飾ってあり、利用者と共に制作し、自分たちの家だと言う意識を高めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫、自由に座れるソファや畳、テレビや雑誌、新聞等の提供。一人ひとり好きな時間を過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明を行い、居室内の環境へは愛用品や愛着品を持って来て頂いている。居心地の良い環境が過ごせるよう設置や配置なども本人やご家族に願っている。	居室は、畳とフローリングの部屋があり、ベッド・エアコン・洗面台・クローゼットが備えられている。転倒の危険のある利用者には、畳の上にクッションを入れて、その上をフローリングにして安心して過ごせる様に工夫している。仏壇・テレビ・衣装ダンス等馴染みの物を持ち込みその人らしい居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の生活行動の把握に努め、危険個所がないか確認後、改善し自由な行動の妨げにならないよう安全へ配慮している。			